

創刊のことば

こころの未来研究センターは、2007年4月の設立から1年半を経た2008年11月、鴨川にかかる荒神橋のたもとに新築された京都大学稲盛財団記念館に研究の場を移すことになりました。センターのこの新しい門出を記念して、定期刊行物『こころの未来』を創刊いたします。

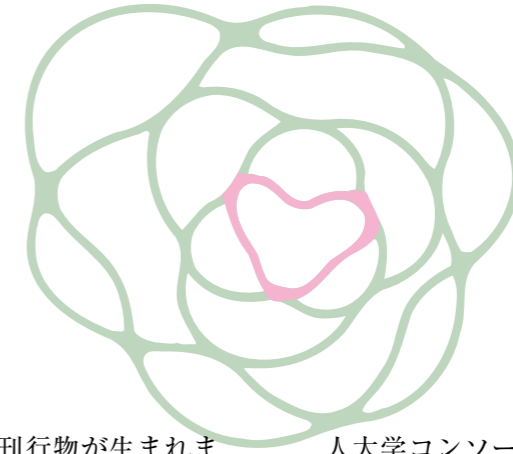
こころとからだ、こころときずな、こころと生き方。この3つの研究領域と、それらをつなぐ融合領域を探求のフィールドとして、センターに集う研究者は、日々多様な研究プロジェクトに取り組んでいます。この冊子には、その研究活動から生みだされた成果報告や研究論文、こころをめぐる研究エッセイ、対談など、さまざまな読みものが掲載されます。この冊子が今後永く、こころの未来研究センターとこころに関心をもつ多くの方々をつなぐメディアとして育ってゆくことを期待しつつ、創刊のことばといたします。

こころの未来研究センター長 吉川左紀子

『こころの未来』創刊を祝って



京都大学総長
尾池和夫



京都大学に素晴らしい定期刊行物が生まれます。『こころの未来』というたいへん魅力的な名を持つ刊行物の創刊を、こころからお祝い申し上げます。

京都大学に「こころの未来研究センター」が設立されたのは、2007年4月1日でした。その設立記念のシンポジウムと祝賀会が時計台で開かれたのは2007年7月8日でした。そのシンポジウムの開催にあたってのお祝いでも申し上げましたが、文系とか理系というような枠を取り払って、この研究センターができたということに、まず大きな特長があると私は思っています。

こころのはたらきを見つめるとき、そこには広い視野がなければなりません。こころのはたらきを、からだ、きずな、生き方という視座から見つめる教育を行い、研究活動を行う場であるという大きな特長を持っている研究センターです。

このセンターができたきっかけは、「京都文化会議」で、5年間にわたってくり広げられた議論の中にあっただと思います。「京都文化会議」は、文化庁、京都大学、財団法人稲盛財団、京都府、京都市、京都商工会議所、国際日本文化研究センター、財団法人関西文化学術研究都市推進機構、財団法

人大学コンソーシアム京都、京都新聞社、NHK京都放送局などで構成する京都文化会議組織委員会が主催して、京都で開催しました。これらの関係者のご努力とご協力で、この研究センターは誕生したと思います。もちろん、この研究センターの発足にあたって、直接あるいは間接に、研究センターに参加してくださった方々のご苦勞があったの発足でした。

京都文化会議2004の閉会の挨拶で、京都大学が生まれたころ、小泉八雲の小品集「心」が書かれ、夏目漱石の「こゝろ」が出版されたことを話しました。この漱石の「こゝろ」は英訳されてもその題名は「Kokoro」であったということをお話しました。そして、京都の地で21世紀のこころを求めて教育と研究の活動が続いていくことを願って、京都大学でもこの貴重な議論の成果を引き継いでいきたいと申し上げました。

この「Kokoro Research Center」の活動を通じて、「Kokoro」という単語が、世界の共通語となることを願っています。今後この新しい組織がますます充実して次の世代を担う人材を育て、「こころの未来」が新しい研究発表の場としてますます充実していくことを祈っています。

こころの未来
KOKORO RESEARCH CENTER
KYOTO UNIVERSITY

2008 vol.1 創刊号 目次

創刊のことば	吉川左紀子
01 『こころの未来』創刊を祝って	尾池和夫
02 対談 総長カレーとiPS細胞	尾池和夫+吉川左紀子
07 こころの未来研究センターの設立経緯と概要	吉川左紀子
08 研究プロジェクト一覧	
10 研究プロジェクト 能動的注意に関わる 脳内神経メカニズムの解明	船橋新太郎
12 研究プロジェクト 癌患者支援プロジェクト	カール・ベッカー
14 研究プロジェクト 京都における癒しの伝統とリソース	河合俊雄
16 研究プロジェクト 青年期の社会的適応と文化	内田由紀子
18 岡本道雄先生インタビュー 戦争とこころ	岡本道雄+吉川左紀子+内田由紀子
24 論考 認知科学からこころの発達を探る	十一元三
26 論考 脳機能画像とこころ	福山秀直
28 座談会 こころと日本文化	山折哲雄+吉川左紀子+カール・ベッカー+鎌田東二
44 論考 世阿弥における「無心」の厚み	西平直
46 論考 自己矛盾のメンタリティー	北山忍
48 こころの未来セミナー報告 こころと「神秘世界」	鎌田東二
50 センターの動向 (2007.4～2008.9)	
52 スタッフ紹介	